

鷗外親子が

訳した

グリム童話

会期 2014年3月1日(土)

4月20日(日)

いまでも読み継がれているグリム童話。ドイツのグリム兄弟によって1812(文化9)年から出版され、日本でも明治初期から数話ずつ訳され始めます。1887(明治20)年4月、菅了法^{すがりょうほう}によって日本初のグリム童話単行書『西洋古事 神仙叢話』が刊行され、以後多く翻訳されるようになります。

鷗外も、子どもたちと一緒にグリム童話を読んでいました。

長女・茉莉は、幼いころ「雪白姫、薔薇姫、シンデレラ、金の毬と蛙の話、ハンスとグレート、赤頭巾」などの「^{ドイツ}独逸のお伽噺^{メルヘン}」を、父の膝の上で聴き、母に夜眠る前におはなししてもらったと回想しています。

長男・於菟は、1902(明治35)年、12歳のときから16歳ころまで、ドイツ語からグリム童話15篇を和訳し、それらは鷗外の添削を経て雑誌に発表されました。鷗外が加筆した校正刷「賢い百姓の娘」をはじめ、翻訳が掲載された雑誌「芸文」「万年草」「心の花」、その結晶ともいえる単行書『しあはせなハンス』翻訳発表の道筋をたどり、グリム童話の翻訳をめぐる親子の活動を眺めます。

鷗外は於菟にドイツ語をどのように教えたのでしょうか? 鷗外が於菟のために手作りした教材『独逸語の教科書』や、於菟による『明治37年懐中日記』にみる親子の交流もあわせて紹介します。

世界中で読まれているグリム童話の魅力とともに、現代にも通じる親子の姿をご覧ください。



『しあはせなハンス』グリム兄弟〔作〕森鷗外、森於菟〔共〕譯 脇田和〔絵〕文藝春秋新社/昭和23年12月刊

左上 脇田和 挿画



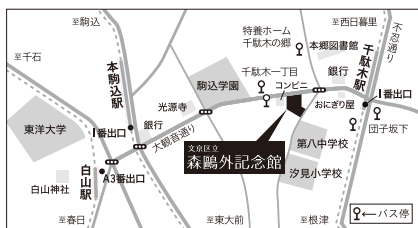
「菅了法筆鷗外宛書簡(大正5年7月7日付)」



鷗外加筆校正刷『賢い百姓の娘』



『独逸語の教科書』(明治32年~35年)



[交通案内]

※一般の駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

○電車

- 東京メトロ千代田線「千駄木」駅1番出口徒歩5分
- 東京メトロ南北線「本駒込」駅1番出口徒歩10分
- 都営三田線「白山」駅A3番出口徒歩15分

○バス

- 都営バス草63番系統「千駄木一丁目」下車徒歩1分
- 都営バス上58番系統「団子坂下」下車徒歩5分
- B-1ぐる千駄木・駒込ルート
- 「18 特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車徒歩5分

展示関連講演会

演題: ○○○○○○○○○○○○○

日時: 2014年3月16日(日) 14時-16時30分

講師: 吉原素子氏(立教大学講師、関東学院大学講師、翻訳家)

会場: 文京区立森鷗外記念館 2階 講座室

料金: 無料 定員: 50名(事前申込制)

ギャラリートーク

展示室2にて当館学芸員が展示解説を行います。2014年3月12日、26日、4月9日(いずれも水曜日)各回14時~(30分程度)。申し込み不要(展示観覧券が必要です)。

申込方法

往復はがき 往信に「3月16日講演会」・氏名(ふりがな)・住所・電話番号を、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館「展示関連講演会」受付係までご応募ください。

Eメール 件名に「3月16日講演会」、本文に氏名(ふりがな)・電話番号・Eメールアドレスを明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpまでご応募ください。

3月7日(金) 必着

*申し込みは、1通につき1名様(お一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

*ご不明な点等ございましたら、文京区立森鷗外記念館にお問い合わせください。

文京区立森鷗外記念館

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4

電話 03-3824-5511 URL: <http://moriogai-kinenkan.jp> 開館時間 10時-18時(最終入館17時30分) 会期中の休館日 3月25日(火)

観覧料 一般300円(20名以上の団体は240円) 中学生以下無料、障がい者手帳ご提示の方と同伴者1名まで無料